

小学校

A. K. さん (学校教育 理科専修)

滋賀県小学校 合格

1) はじめに

私は大阪府出身で、小学校の先生になりたいなと思い滋賀大学に入学しました。教員採用試験をどこで受けるのかは決めておらず、出願のぎりぎりまで地元の大阪府または大阪府で受けるのか、また滋賀県で受けるのか悩んでいました。先輩方のアドバイスや周りの仲間の応援を受けて最終的には滋賀県の小学校教員を目指すことにしました。地元で教採を受けるか、滋賀県で教採を受けるのか、悩んでいる方の助けになれると嬉しいなと思います。

2) どこで採用試験を受けるのか

はじめにでも記したように、大阪府出身の私は滋賀県の教員採用試験を受けることにしました。理由は大きく2つ、滋賀大学に入学してできた周りの仲間たちや先輩方との繋がりを教員になってからも大切にしていきたいかったから、もう1つは滋賀県の自然や環境、人々の雰囲気になど惹かれたからです。本番の面接試験でも「なぜ大阪府出身なのに滋賀県で受けるのか」について聞かれることは分かっていたので、そのまま素直に答えました。都道府県によって筆記試験の内容や面接、模擬授業の形体(時間や人数など)がかなり異なるので、受験する都道府県の過去問などに早いうちから目を通しておくといいです。

3) 1次試験までのこと

部活動の引退が5月だったこともあり少しずつしか出来ませんでした。まずは筆記試験の勉強をと思い、3月頃から勉強を始めました。筆記試験の勉強は主に『一般教養』『教職教養』『小学校全科』『小論文』の4つがあります。先輩方から「教職教養から始めて、ある程度できたら小学校全科をやるといいよ」というアドバイスをもらっていたので、教職教養➡小学校全科➡教職教養…という風に2つの分野を忘れないよう並行して進めていきました。受験を終えて分かったことは、『一般教養』は範囲が非常に広いため、先に勉強してしまうと他の3つの分野の勉強ができないということです。滋賀県に関しては『一般教養』はそこまでたくさん試験に出ないので、自分の苦手な教科を重点的に勉強すれば十分だと思います。『小論文』は2月頃から大学で開いていただいた「春季セミナー」や「教職実践論」でしっかりと指導していただけるので、心配しなくても大丈夫です。時間のあるときに新聞に載っている教育問題や、月刊「教員養成セミナー」を読むといいと思います。図書館2階に置いてあるのでおすすめです。

4月頃に大学推薦の募集がありました。残念ながら私はいただくことができませんでしたが、大学推薦をいただくと、1次試験の筆記(一般教養、教職教養、小学校全科)が免除になるため、面接試験や小論文に集中できると思います(特に中等高等の教員志望の方は狙ってみてもいいと思います)。

6月頃からは本格的に面接や集団討論の練習をしていきました。校種が同じ仲間たちや違う校種の仲間たちと一緒に学校に集まって練習をしたり、練習の様子をビデオや音声で撮ってあと、みんなで振り返ったりもしました。2次試験の個人面接や模擬授業の対策にもなったので、大変でしたががんばってよかったなと思いました。

4) 1次試験本番

2016年

7月9日：筆記試験（一般教養・教職教養・小学校全科・小論文）

7月16日：面接試験（集団面接・集団討論）

筆記試験については、都道府県別に過去問が売っているので省略します。お昼ご飯持参の、1日に盛りだくさんの試験内容なのでふんばってください！

面接試験は、各班5～9名で集団面接、集団討論を行います。集団面接では1人ずつ『1分間のスピーチ』と『意見発表』を行います。『1分間スピーチ』は過去のテーマなどを参考にしながら、自分のアピールポイントや、教員になったらどんなことに取り組みたいかなどについて発表します。『意見発表』は教育に関する自分の考えや、教育問題についての自分の意見についての発表です。考えがまとまった人から挙手で発表します。丸暗記したものを言うよりも、落ち着いて自分の言葉で、自分の考えを話せるように練習しておくといいなと思いました。

集団討論では1つのテーマについて班で15分間話し合います。司会の有無や進行の仕方は受験者に任されるため、どのような形で討論が進むかは本番まで分かりません。何度も学校で仲間と練習しましたが、なかなか本番では同じようにいかなかったので、焦らずに班の人の話をよく聞きながらテーマについて深めていけるといいと思います。初めは手を挙げて意見を言うことや、話題を変えることができず苦戦しましたが、何度も練習することで慣れることができると思います。

5) 2次試験までのこと

1次試験本番から2次試験まで1か月と少ししかないので、すぐに2次試験の対策に移りました。1番不安だった『模擬授業』からはじめて、並行して「教職実践論」で『個人面接』や『特別活動』の練習を行いました。

『模擬授業』では自分で科目を選択し、本番では10分間の模擬授業を行います。どの科目にするのかは、過去問を見ながら自分がやりたいな、授業が思い浮かびそうだなと思う科目を選ぶといいと思います。私は理科が好きなので、理科を選択し、教科書を元に指導案や板書計画をつかって友達と練習をしました。授業の内容も勿論ですが、児童への声かけや指示、板書などの教師としての立ち振る舞いが見られるそうです。1時間の指導案をつくるというよりも、授業の流れをイメージして自分なりにまとめることが大切です。

『個人面接』は、仲間との練習や、「教職実践論」の先生に見ていただくことで自信をもってハキハキと答えられるようにしました。1次試験と同じように、返答の丸暗記ではなくて、面接官の目を見てはっきりと答えられるようにするいいと思います。

6) 2次試験本番

2016年

8月18日：水泳実技

8月25日：個人面接・特別活動・模擬授業・音楽実技

2次試験の試験日は、1次試験の合格発表とともに通知されます。校種受験番号によって試験日が違うので注意してください。

水泳実技以外の試験は、グループごとにそれぞれの試験を順番に受けていく形でした。個人面接からはじまるグループもあれば、音楽実技からはじまるグループもありますが、当日までの試験から始まるかは分かりませんでした。

『音楽実技』はピアノ、リコーダー、歌唱の3つです。ピアノはバイエル教本から事前に指

定された番号の曲を弾きます。暗譜ではなく、楽譜を見ながら弾くことができます。リコーダーは4小節の楽譜の曲を吹きますが、難易度はそこまで高いものではありませんでした。

『特別活動』は、「教職実践論」で対策していただいたものとほとんど変わらない試験形態でした。日本昔話の中からテーマを1つ指定され、5、6人のグループで「子どもたちにある1つのテーマを伝えるための手本となる劇」を行うよう指示されます。劇の中でのセリフや役割分担は自由で、劇の練習を18分間で行い最後の3分間で劇の本番を行います。セリフや役割分担を決めることや、しっかりと役を演じることも大切ですが、タイムキーパーや全体の進行をすることも大切だなと思いました。

『模擬授業』は教科を選択し、30枚ほどあるカードの中から1枚引いてテーマを決定します。1回カードの引き直しができますが、教科変更はできません。10分間で授業の構想メモを作成し、10分間で模擬授業を行います。黒板には定規やコンパスが置いてあるので、算数などを選択した場合は使用した方がいいかなと思います。

『個人面接』は3人の試験官からそれぞれ質問をされます。1問1答というよりも、自分の返答に対してさらに深めていくような形でした。他のグループでは圧迫面接のような形で、かなりずばずばと質問されたという話も聞きましたが、私の場合は特にそのようなことはありませんでした。質問に対して、自分はどのように考えているのか、自分だったらどうするかといった具体的な内容を答えることが大切だったのかなと思います。自信を持って答えることが出来れば、面接官の方もうなずいて、自分の考えを肯定するような言葉をかけてくださるので、怖がらずに胸を張って答えてほしいです。

7) さいごに

最後まで読んでくださってありがとうございます。少しでも、教員採用試験を受ける方の力になれば嬉しいです。試験の内容や量も多く大変だと思いますが、教員採用試験を通して自分の長所や強みに気付けたこと、また今まで関わってきた仲間とより深く関わることができたのは教員採用試験を最後まで粘り強くやり抜いたから得られたものなのかなと感じています。みなさんが本番で力を出し切れるよう、また希望の進路をつかみ取り、素敵な先生になられることを心から願っています。

Y. K. さん（環境教育課程）

滋賀県小学校 合格

○はじめに

今年度、滋賀県教員採用試験小学校を受験し、採用の内定をいただきました。ここでは、私が受けた教員採用試験を経験して感じた事や試験対策の仕方について記しました。少しでも皆様のお役に立てばいいと思います。

○一次試験

1.筆記

筆記の勉強は2月頃から始めていましたが、本格的に勉強を始めたのは4月頃からです。しかし何事も早いにこしたことはありません。ここでは受験科目別に私の勉強法について述べてさせていただきます。

<教職教養>

教職教養は覚えることがたくさんですが、これまで大学の授業で習ってきたことも多く含まれているため、習ったことの復習をする感覚で勉強していました。教材はオープンセサミを使って何度も繰り返し覚えることに徹していました。覚えるときには、単に単語などを覚えていくのではなく、常に理由を考えて覚えるようにしていました。（例えば、教育法規ではなぜこの憲法ができたのかなど）そして項目ごとに演習問題を繰り返し、同じ問題を7月までずっと解き続けました。

<小学校全科>

とりあえず、指導要領はほぼ完ぺきにする勢いで覚えました。指導要領は発達段階に応じて学年ごとに少しずつ進化している感じだったので覚えやすいと思います。これも同じ問題集を7月まで解きつづけました。小学校全科はらくらくマスターを使って空いた時間に見るようにしていました。

<一般教養>

小学校を受験する人は、一般教養の内容は小学校全科の内容とほぼ一緒なため、小学校全科を勉強していれば十分だと思います。内容はこれまでに習ってきたことですし、分からないことは違う専攻の子たちに助けをもらったりして、これはもうどれだけ努力できるかの差だと思います。

2.小論文

小論文は「わかりやすさ」ただただこれに尽きると思います。私は元々、文章を書くのが苦手だったので小論文においては難しい言葉や表現は使わず、自分の考えをシンプルかつストレートに伝えることを心がけていました。小論文は書いていくうちに徐々に徐々に慣れていくものです。そのため、実践論で講師の方に添削していただく中で一回一回自分の中で書き方をつかんでいき、その反省を生かした小論文を書き続けてください。※勉強に追われてくると、小論文を書く時間を惜しんでしまいがちですが、小論文を添削してもらう機会には限りがあります。一回を大事にしてください。

3.集団面接

集団面接は実践論や、実践論以外にも友達と一緒に練習していました。集団面接の練習をすると他の人の考えや、また他の人が持つ知識にふれることができるため学ぶことしかありません。集団面接は、個人面接と違い自分の言いたいことを他人に先に言われてしまう可能性があります。

す。そのため、私は、教育ワード（例えば、勤労観、生きる力など）ごとに自分はどんな引きだしをもっているか、マインドマップのように一度書き出し、整理していました。すると集団面接においてその場のムードに流されるのではなく、自分の引きだしにある話の方向へもっていき、自分のペースを乱さないように心掛けていました。また、集団面接における面接官に与える印象は、他者との比較に関わってくると思います。そのため、練習する中で、内容だけでなく、客観的に見てどんな人の話し方や聞き方が良い印象を与えるのか、周りの人を観察して学ぶことも集団討論の対策としては重要なことだと思います。

●一次試験について

私は、一次試験を受ける前に学内推薦の選考で落ちました。落ちた時は、自分の実力のなさや努力の少なさを認めました。しかし、その分筆記試験対策も面接対策もと思うととてもしんどかったです。また、私は身近な人で小学校を受ける人がいなかったため集団討論の練習も周りの人に比べてスタートも遅く、回数も少なく、集団討論に対する不安もとても大きかったです。しかし、自分の状況をマイナスに見ても何も得られるものもないし、むしろしんどくなるだけなので常に練習一回一回を大事にするようにしていました。先ほども述べたとおり、やるにこしたことはありません。しかし、面接練習を100回している人も10回しかしていない人も、受かれば皆一緒です。そのため、時には集団討論の練習をしてる中で友達と比べて劣等感を感じてしまう人もいるかもしれません。また周りが練習しているのを見て焦ってしまう人もいるかもしれません。でも大丈夫です。自分なりに常に学ぶことを心がけていれば十分に力をつけていくことができます。自分のやり方を肯定した一次試験対策をしてください。

○二次試験

二次試験は主に面接対策を多くしていました。ここでは面接対策について述べさせていただきます。

<模擬授業>

模擬授業は範囲の狭い生活科を選択し、部外秘¹の過去問については全て指導案の略案を作りました。指導案は一人で作るには量もあるため、同じ生活科で受験する友達と協力して作っていました。しかし模擬授業において大事なものは、ふるまい方であると思います。常に子どもがいることを想定して、子どもに対する細かい配慮を意識して授業をすることが重要だと思います。そのため私は、生活科の授業だけでなく他教科で受験する人の模擬授業も見せてもらい、板書の仕方から話し方、表情、配慮など内容に関わらず授業するにあたって大切なことを学ぶよう心がけていました。

<個人面接>

個人面接では、自分の教育観だけでなく、専門的な知識も重要となってくると思います。そのため、私は特別支援教育における知識に自信がなかったため、友達に聞いたり改めて勉強しなおして試験対策をおこなっていました。個人面接は練習を重ねていく中で、自分の中にある教育観が明確になっていくと私は思います。そのため、何度も何度も練習を重ね、教育キーワードごとに自分の考え方を持っていれば大丈夫です。

¹部外秘 「教職実践論」の講座で配布される教員採用試験受験者報告書のこと

●二次試験について

二次試験は一次試験が終わり、少し気が抜けてしまいがちです。私は実際、二次試験の勉強期間になってからは、自分にやる気を起こさせるところから毎日がスタートしていたと思います。しかし、一次試験が通ったからといって二次試験が必ずしも通るとは限りません。後で後悔したくなければ、全力でこの期間もやりきることが大切です。二次試験は人によっては早く終わる人もいるし、試験日まで期間があく人もいます。しかし、この試験を越えれば、しんどい就職活動が終わるので最後まで頑張ってください。

○さいごに

就職活動は、教員採用試験に限らず、企業に就職する人も公務員試験を受ける人も、誰にとってもしんどいことだらけで、日々いろんなことに悩まされると思います。私自身も、今回この活動記を書かせていただき、改めてたくさんの方に悩んできたなと実感しました。しかし、今思うとこの就職活動があったから自分自身のことについて気づけたこともたくさんあったし、教育や教師になることについて改めて考えることもできました。きっと、これから皆さんは、就職活動をするにあたって、「本当にこれでいいのか」と思ってしまうこともあると思います。私はその自問自答は就職活動に限らず、これから先ずっと浮かんでくる問題だと思います。そのため、今自分は何をすべきか、それを常に考え、自分にとって必要だと思うことをひたすら頑張ってもらいたい。いろんな悩みや不安は就職活動にはつきものです。それは、周りの人も同じなので、採用試験を受ける人に限らず、友達同士で支え合って頑張ってもらいたいと思います。また、友達だけでなく先輩にも話を聞いて、ポジティブにかつ何か学べる就職活動にしてほしいと思います。

つたない文章でしたが、読んでいただきありがとうございました。少しでも皆さんの力になれば幸いです。滋賀大の卒業生として、みなさんの就職活動を応援しています。お互い頑張りましょう。

R. S. さん (学校教育 体育専修)

京都市小学校 合格

【教員採用試験を受けたきっかけ】

学校の先生になりたいと思い滋賀大学に入学しました。しかし、1、2回生の時はあまり実践的なことはしていなかったため教師という職業がどんな感じなのかが分かりませんでした。3回生で小学校での教育実習を行い、私が今まで身につけてきた知識が小学校現場においてとても必要であるという事を感じました。そして、自分が生まれ育った京都市の小学校の教員を目指してみようと思い、受験することを決めました。

私は、京都市の教師塾に参加していました。教育内容の講義をたくさん聞くことができ、京都市が求めている教育を知る機会にもなったので、ぜひ参加することをお勧めします。また、スクールサポーターも経験させて頂きました。実際に学校現場に入ることができる貴重な経験になると思うので、積極的にたくさん行うことをお勧めします。

—学内選考—

大学内で京都市志望者全員が面接を受けて2人が大学推薦を受けることができます。大学推薦を受けることができると、京都市採用試験の一次試験の筆記試験のみ免除となります。私は、大学推薦は落ちてしまったので筆記試験を受験しました。

【一次試験】

◎筆記試験

一次試験に向けての勉強は4回生の4月ごろから始めました。1日〇時間はやると決めたり、いつまでにここまでやると決め問題集を解いていき、まとめたりしていきました。一人だとなかなか集中できなかったため大学に行き、学習室で友達と勉強していました。また、京都市役所には3年分の過去問があるので、コピーしておくとう京都市の問題がイメージしやすくなるのではないかと思います。

◎個人面接

1. 個人面接

実践論でもらった報告書の質問をもとに、面接ノートを作りました。文章を丸暗記するのではなく、この質問が来たらこの話をするというようにキーワードをいくつか覚えておいて、文章にするのがよいのではないかと思います。実践論でも練習しますが、友達同士で毎日、面接形式で練習していました。実際の試験では、練習していた質問はほとんど無く、少し焦りましたが練習を思い出して落ち着いて答えることが出来ました。実際の質問では、「LDを抱える児童に対する対策について」などの質問がありました。このような質問にもスムーズに答えられるように知識を確立していく方がよいと思います。個人面接の練習は、自分自身の気持ちの振り返りを行う事ができ、教師になる熱意や意思を再確認する機会にもなり良い経験になったと思います。

2. ロールプレイ(1分間の場面指導)

個人面接の最後にロールプレイを行います。本番ではどの学年でどんなテーマが来るかは分からないのでかなり焦ってしまいました。1年生から6年生までの子どものイメージを持って

おくことが大事だと思います。また、部外秘に出ている過去問を参考に練習することが重要だと思います。本番では、とにかく明るく落ち着いて話しをすることが重要だと思います。

【二次試験】

◎小論文（50分 1000字、20分 400字）

私は文章を書くのがとても苦手で、教職実践論でもうまく書けなかったです。しかし、先生に何回も添削して頂いて、小論文は必ず書き直しをするようにしていました。小論文用のノートを作っておくと、「この問題の時にはこの構成メモ」と書きやすくなるのではないかと思います。小論文ででてくるテーマは、日々考えておき自分の考えを確立することが重要であると思います。

◎体育実技（とび箱・バスケットボール）

小論文が終わると体育館に移動し体育実技を行います。跳び箱は、4段を跳び、バスケットボールはレイアップシュートを行いました。大学の体育館の空き時間を使って練習をしました。

◎集団討論

40分の集団討論を行います。集団討論の対策は、京都市メンバーで集まり過去問を活用して行いました。京都市は集団討論の人数が約12人と多いため、発言回数が自然と少なくなってしまいます。また、テーマも具体的であるため、内容整理というよりも対策メインの話し合いになります。本番では、全員が学生でしたがとても活発な討論になり積極的に発言していかないと話せない状況でした。

◎指導案作成

どの学年でどの教科の指導案作成をするのかは当日までわかりません。そのため、京都市で使われている3~6年生の教科書から、試験に出そうな単元を予想し、指導案作成と模擬授業の練習をすることが重要だと思います。滋賀県と京都市では指導案の書き方が違うので京都市スタンダードを見て、取り組むようにしていました。京都市総合教育センターにあるカリキュラム開発支援センターにたくさんの指導案がおいてあるので活用しました。

◎模擬授業

指導案作成をし、実際に京都市メンバーで授業を行う練習をしました。話し方、表情、板書の仕方など動画を撮り振り返り改善していきました。本番では、違う集団討論のグループが児童役になって授業を行いました。緊張はすると思いますが、表情を意識して楽しそうに授業を行うことが重要であると思います。

【おわりに】

拙い体験記でしたが最後まで読んで頂きありがとうございました。教員採用試験は団体戦です。京都市でも滋賀県でも受ける県が違っても、勉強する内容の共通点は多くあると思います。友達同士協力しあいながら、熱意を高めていって下さい。この体験記が少しでもお役に立てれば幸いです。ありがとうございました。

N. Y. さん (学校教育 学校心理専攻)

京都市小学校 合格

横浜市小学校 合格

【はじめに】

この度は、「就職活動体験記」執筆の機会を頂きまして本当にありがとうございます。拙い文章にはなりますが、私の教員採用試験の体験について書かせていただきます。私は、周りとは比べて試験に向けてのスタートが遅かったと思うのですが、一緒に受験をした仲間や教職実践論などでお世話になった先生方に引っ張ってもらい採用の内定を頂けたと感じています。

私は、大学入学当初から小学校教員になりたいと考えていました。どこの教員になるかについて、「できれば自分が通っていた京都市の教員になりたいけれど倍率がなあ」と特に強いこだわりはありませんでした。その為、教員採用試験は京都市と横浜市の2つの市を受けました。

【採用試験に向けて】

京都市と横浜市との併願受験の良かったことは、試験の感覚を掴みやすかったこと、片方の市でうまくいかなかったことを参考に修正して次に挑めたこと、極度に緊張しすぎず冷静でいられたことです。「ここしかない」という気持ちで採用試験に向かうのも強い気持ちで大切ですが私はそれに押しつぶされそうだったので、試験慣れの間をきちんと用意できたと思います。

しかし、私の他には滋賀大から横浜市を受験した方は知りません。また、京都市の受験をされた方は、併願はされていなかったと思います。滋賀県受験の方も含めて、私の周りは第一志望のみの受験が多かったです。

(1) 筆記試験

所属の専攻では、3回生時に論文を書き上げる課題があり、テキストは買っていたものの「小学校全科」「一般教養」「教職教養」の勉強のスタートは3月に入ってからでした。また、3月に予定を詰めすぎたこともあり、本格的な試験勉強は4月に入ってからだったと思います。周りの友だちからは少し遅れつつも一緒にテキストを進め、友だちの家に泊まり込ませてもらい、集まって指導要領の目標などを覚えていきました。一緒に確認し合いながらの暗記は印象にも残りやすく、効率よく進めていけたと思います。私の家から大学までは電車でかなりの時間がかかるので、電車に乗っている時などは、いわゆる「スキマ時間」を埋めて遅れを必死で取り戻そうとしました。

「小学校全科」「一般教養」「教職教養」の勉強については、受験する場所により出題方法こそ違いますが、必要な知識やポイントとなってくるところはほとんど同じなので、京都市と横浜市の勉強は基本的に分けずに行っていました。テキストである程度知識がついて過去問を解く段階になって、過去の傾向から京都市用の対策、横浜市用の対策、と補強していきました。両市ともマークテストだったことが私としてはありがたかったです。併願を考えている人は、解答方法が似ているところを選択するのも1つの手だと思います。

「小論文」については、教職実践論の担当の先生が出してくださった課題に取り組んでいきました。小論文を書くための書式のルールなど基礎の基礎から教えていただき、教育問題についての考え方、具体的な取り組み方に自分の経験を加えて述べていくことはかなり難しく、実

実践が終わってからも自分で過去問を使って練習を重ねました。私の担当の先生はメールで添削もしてくださり、志願書のアピール文も添削していただきました。他の先生方もそうだと思うので、分からないこと、聞きたいことはすぐ尋ねた方が簡潔でスッキリとした答えをもって論文に向き合えると思います。小論文に必要な具体的な解決方法を考えるためには、その種を持っていなければなりません。私は、中学英語と特別支援の免許取得のため、3回生までスクールサポーターとしてボランティアに行く時間を確保できていませんでした。4回生になってから、種を集めるため滋賀県と京都市の小学校にスクールサポーターとしてできるだけたくさん入りました。実際に遭遇した教室での出来事を元に小論文を書くことは、事実と考えのみを書くときに比べてやりやすいと感じました。現場でのボランティアは自分の持っているエピソードとして貯めていくことができるので、今まで入っていなかった方々は4回生からでも少し時間を作ることをお勧めしたいです。

(2) 面接試験に向けて

周りが作っていたので、同じように面接ノートを私も作りました。伝えたいこと、それに関連したエピソードなどキーワードを並べて作っていききました。キーワードとして引き出しを作っておくことで、似たような質問に対して臨機応変に答えていくことができていると思います。

個人面接の志望動機については、京都市、横浜市それぞれが重きをおいて取り組んでいること（小中一貫教育、地域性、特別支援教育など）の内で特に自分は何をしたいのかを1つ選んで、そこに貢献していきたい気持ちをアピールしました。私は小中一貫教育について自分が大学で学んだことを貢献できるであろうことを中心にボランティア活動のエピソードなどを話しました。すると横浜市では、併願先の京都市と比べて小中一貫教育がより広く活発に行われている理由について考えを聞かれました。まさか比較した質問が出るとは考えていなかったため、答えを出すまでに時間がかかってしまったのですが、予想外の質問に対してもゆっくりで言葉を慎重に選んで答えることが大切です。

面接試験の練習は、一人では絶対にできません。模擬授業の練習は同じところを受験する友だち同士で改善点を指摘し、お互いの良いところを真似し自分のものにしていくなど、他者をみること、自己を高めていってほしいと思います。私たちは試験の練習として、学校の学習室を利用させていただいていました。表情やしぐさ、口癖など、自分では気づくことのできないところを友だちに言われたことでより良く修正して試験本番に向かえたと思います。最後の方は、教科書を見ながら、試験の出題予想をしながら練習に取り組みました。

【おわりに】

教員採用試験は、思っていた以上に友だちとの支え合い、協力のし合いが必要でした。これから教員として働こうとしているのだから、試験を受ける時から、人と関わり合って共に進もうという態度を示していくことが大切なのだろうと思います。ぜひ、周りと一緒に教員採用試験という大きな山を乗り越えてほしいと思います。

また、教員採用試験の試験勉強をすることで、自分自身を見つめ直し、これからについて軸を作ることができたと考えています。周りを見すぎて焦った気持ちになってしまうときは、自分自身を見つめて明るい気持ちで前向きに取り組んでください。不安な気持ちは自分だけがもっているものではありません。

最後に、私が書きたいことに偏りすぎた内容であったにも関わらず、最後まで読んでいただき本当にありがとうございました。この体験記が少しでもお役に立てれば幸いです。陰ながらではありますが、応援しております。頑張ってください。

Y. S. さん (学校教育 算数専修)

兵庫県小学校 合格

【兵庫県の教採】

試験日程が違う → 周りのペースと必ず一線引いておくべし

説明会に自ら出向かなければならない → HP はこまめにチェックすべし

5月の願書が二次試験にまで影響する → 実践論やゼミの先生に早めに自分から相談すべし

情報が少ない → 兵教大の友達などに聞くべし

小論文がない → 実践論の参加については賛否両論なのでしっかり考えるべし

【筆記試験対策】1次筆記試験 (一般教養・専門教養)

筆記試験の兵庫県の特徴

- ・筆記試験の割合が圧倒的に高いです。
- ・出題範囲が狭く深い。学習指導要領はしばらく出ていない。ただし情報の分野と来年度から英語の範囲が増えるらしい。

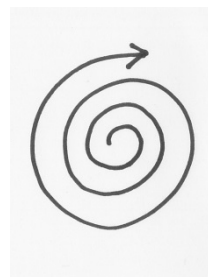
→ おそらく滋賀県より筆記試験に全力で点数を取りに行かなくてはならない。

最後にも書きますが、筆記試験対策は自分に合った勉強方法を見つけ出すことが大切なので、私という人間について少し前提を書いておきます。

前提1 私は理系で算数・数学については対策がいらなかった

前提2 私は暗記が苦手な、まとめるよりひたすら演習を繰り返すタイプである

私の筆記試験対策のイメージを図にしました。よく出るところを着実に覚えて、どんどん答えられる問題や分野を増やしていくイメージです。教採の筆記試験の範囲は無限大です。すべてを網羅するのは不可能なので、試験日までにこの円を大きくしていこうと思って進めていました。



具体的には…

問題を解く

→ 間違える「炎色反応覚えないと！」

→ 「炎色反応の面白い語呂合わせないかな」ググる

→ また問題を解く (ただし炎色反応のどこを聞かれても答えられるようにすべての色を書く)

→ 日にちを空けつつ、何度も連続で正解するようになるまで解く

何冊もするより一冊を完璧にした方がいいなんてよく言われますが、私はそのスタイルでした。

私は歴史の分野が特に苦手な、時代のくくり (鎌倉、室町など)すら順番に言えないレベルでした。小学校の先生になろうとしているのにこれはダメだ!! と思い、歴史のバラエティ番組や日本の歴史という漫画から自分に歴史への興味を持たせることから始めました。このおかげで、ニュースも少しわかるようになって、歴史って面白いなと思えるようになりました。教採は苦手な分野に徹底的に向き合うチャンスであるとも思うので、久しく味わっていなかった「わかった！」の感動を味わってほしいと思います。

筆記試験対策として一番大切なのは、自分に合った勉強方法を見つけ出すことだと思います。

- ・参考書に書き込むことで覚える
- ・一冊のノートに問題演習をして覚える
- ・音読することで覚える
- ・自分なりにまとめてみることで覚える

ちなみに私は、ついきれいなノートを作ることに時間を費やしてしまうので、紙切れにひたすら殴り書きで演習をしていました。時代の流れは、あえて残らないようにホワイトボードにまとめていました。周りの友人も、勉強の方法は様々でした。自分に合った勉強方法さえ見つければ筆記試験は軌道に乗りやすいと思います。

【人物試験対策】願書、1次集団面接、2次個人面接

雑誌や本などにある自己分析

+

マイナビなどの就活生用の他己分析を友人に頼む

私は自己分析によって改めて「私、海外の方とコミュニケーション取る自信がない。」と気づかされました。部活動をやっていたので海外旅行に行く時間はなかったとはいえ、このままでは嫌だと思いました。ネットで外国の方が参加されるイベントなどを調べているうちに、地元明石のNPO法人が行っている外国籍の子どもたちの学習支援の教室を見つけ、ボランティアで参加させて頂けないかと連絡を取りました。4回生の春から週に1回お昼過ぎから参加することになりました。一生懸命日本語を覚えようとしている子どもたちとのふれあいはとても貴重で、自分の視野を広げてくれたと思います。また私はスクサポなどにこの時期行ってなかったので、筆記試験の息抜きにぴったりでした。二次試験でも試験官に興味を持って頂き、胸を張って話すことができました。

また集団面接の練習でも、自己分析をしていたことで小学生の頃の思い出しづらいこともとっさに口に出しやすくなったり、他己分析によって見つけることのできた自分の強みを発表しやすくなったりしました。特に他己分析は友人に頼むのは照れくさくて気恥ずかしいのですが、自分のいいところと直したほうがいいところをはっきりと映し出してくれるので、それを受け止めるだけでちょっぴり成長できたと思います。

今年は願書に教師に必要な資質を記さなければならず、早い段階から実践論の先生やゼミの先生に添削して頂きました。他の受験者も様々なことを書いていたので、正解不正解はないと思いますが、自分が何を大切にしたいのかじっくり時間をかけて考える機会でした。個人面接はこの5月に提出する願書のみで挑むことになるので、何をアピールとして書いておくべきなのか考えておいたほうが良いと思います。二次試験の個人面接の質問は、ほとんど履歴の部分から聞かれました。

【実技試験対策】2次実技試験（音楽・体育）

体育科の先生にお願いして大学の体育館を借りて練習しました。体育科の先生だけでなく、体育の得意な友人に声をかけてアドバイスをお願いしました。マットもバスケも全然できなかったのですが、「まずは倒立で側方倒立回転の感じをつかんでみよう。」「レイアップシュートは、ステップだけ慣れてみよう。」などゆっくり丁寧に教えてもらったり、きれいに見えるコツを教えてもらったり、苦手なことに向き合ったという事実が、当日の自信につながりました。具体的な実技の内容は毎年変わるようですが、HPを見ておくといいかもしれません。音楽は、早め

に歌唱とピアノの曲がそれぞれ出されるので筆記試験の息抜きがてらやっておくといいと思います。

ただ夏休みに入ってからだと、体育館部活が盛んになるので体育館が借りづらくなります。夏休みに入る前から、授業時間に申請してもっと練習しておけばよかったとも思いました。

【試験を乗り越えるために】

筆記試験を乗り越えるのに大切なのは、勉強時間を習慣的に確保することです。自分でしっかり時間を決めて勉強できるような強い精神力を私は持っていないので、「約束しないと朝家出られないねん。」と友達に声をかける作戦をとっていました。

月 ボランティアがあるので地元のスタバで優雅に勉強

火 部活の友達と朝に集団討論の練習をしてその後勉強、放課後には部活

水 公務員試験の友達と勉強

木 部活の友達と朝に集団討論の練習をしてその後勉強、放課後には部活

金 ゼミ

土日 基本的には部活動だが、筆記対策や面接対策のための東京アカデミーの無料セミナーや私立の学校説明会などには、部活を休んで参加。オフの日には京都に住んでいる友達などと京都イオンやカフェで勉強。

友達との約束によって、朝方の自分に合った勉強時間を習慣的に確保できていったと思います。家はまさにご飯を食べて寝るだけの場所でしたが、これは実家通いだっただからこそできたとも思います。また友達と勉強することによって勉強効率が上がることも多々ありました。特に苦手な歴史は、歴史が好きな友達に聞くことによってもやもやが解消されたり、面白い小話で頭に入りやすくなったりします。教育史も友達がまとめてくれたおかげで、すんなりと問題が解けるようになりました。天体の位置関係を一緒になりきって理解しようとしたり、逆に算数や数学では解き方を教えたりしたこともありました。もちろん一緒にいるからこそ、試験範囲外のことが耳に入ってきて気が散ったり一緒におしゃべりしたりしてしまうという人もいると思います。

月曜日のスタバとボランティア、部活動での運動や後輩との関わり、それと友達と食堂で食べるお昼ご飯が私の息抜きになっていました。

どのように勉強するか、何時から勉強するか、誰と勉強するか、どこで息抜きをするか、私の合格はそれらがいいタイミングでいいようにそろったからだと思っています。すべてをひっくるめた自分なりの勉強方法を見つけてほしいと思います。

中学校

T. A. さん (学校教育 数学専攻)

滋賀県中学校 数学科 合格

【はじめに】

私は滋賀県出身であり、地元である滋賀県で教師になりたいと思い教員採用試験を受験した。他府県や私立との併願も考えたが、地域の中学校で教育実習やスクールサポーター活動をした経験から公立の中学校で働きたいと思い、滋賀県のみを受験した。私は大学推薦無しで受験した。大学推薦があれば筆記試験の一部が免除になるが、私自身そのことは気にせず勉強しようと考えていた。大学推薦を受けることで勉強の量が減るとは考えなかったが、もし受けられたら筆記試験の一部が免除になる分、その時間を面接や小論文に当てたいと考えていた。しかし、私は大学推薦が受けられなかったので、改めて全てを満遍なく勉強するように心掛けた。

【何故教師になろうと思ったか】

私は中学生の時に出会った部活動の顧問の先生に憧れて教師になりたいと思った。その先生の指導により、スポーツの楽しさやしんどさなど様々なことについて知ることができた。それがきっかけとなり、私は大学まで部活動を続けていた。子どもたちの人生を変えるきっかけになりたいと思い教師になることを決めた。地域の中学校で教育実習やスクールサポーター活動をするを通して、改めて教師の仕事の大切さや難しさを知ることができた。しかし、生徒の「先生のおかげで少しできるようになった」という言葉に教師という仕事のやりがいを感じた。生徒の成長を支え、成長する姿を見たいと思い、教師になろうと決意した。

【勉強方法】

5月までは部活動をしていたので、それまでは空いている時間を勉強に充てていた。短い時間でも参考書を少しずつ読み進めていった。5月以降は朝から大学で1日8時間以上は勉強していた。

・一般教養

出題範囲が広いこともありすべての分野を勉強することはできなかった。そこで、得意である数学・理科・英語を中心に今までに習ってきたことを復習したり、問題を解いたりした。一般教養は滋賀県の過去問を解くことを中心にし、苦手な範囲は別の問題集を使って補足していった。苦手な社会は、過去問の問題や問題集で解いた問題を付箋に書いてノートに貼っていた。中学校教員は一般教養の比率があまり多くないので、専門や教職教養、小論文などの合間に少しずつ勉強していた。

・教職教養

今まであまり学んだことがないので、11月くらいに書き込み式の参考書を買って、一つずつ埋めていった。年末にはすべて埋め終わり、そこから参考書を見ながら少しずつ覚えていった。その後、図書館で問題集を借りて何回も解いた。間違えた問題をチェックしたり、間違えた問題で新しい知識が出てきたときは付箋に書いて参考書に貼っていった。同じ問題集を3周くらいしたときに、ある程度の力が付いたと実感した。そして、また新しい問題集を借り、同じようにして解いていった。問題集を2冊やり終えた後、予想問題集に取り組んだ。この時点で7、

8割は解けるようになっていた。本試験で満点を取りたかったので、全国の教員採用試験の過去問に取り組んだ。北海道から沖縄までを約3回解き、ほとんどの問題が解けるようになったので、滋賀県の過去問は難なく解くことができた。滋賀県の教職教養は、「教育の指針」からも出題されるので勉強の合間に覚えたり、お互いに問題を出しあったりして暗記していった。

・専門

まず過去問を解くことから取り組んだ。一度解いてみることで、どれくらいの難易度かを理解したかったからである。過去問を解くことで傾向を読み取ることができた。この後私は高校時代に使っていた参考書や問題集で復習を始めた。例題を解くことで感覚を取り戻すようにしていた。例題が解けなかったものには印を付けておき、また後日取り組むようにしていた。問題集の例題を2、3回やり終えた後は、それぞれの単元の最後にある少し難易度の高い問題を解いた。このことにより、応用力を付けたり、様々な問題の見方を身に付けたりしていった。苦手な単元は、しっかりと基礎を固めてから取り組むことが大切である。

・小論文

最初から時間を計って書くのではなく、まずは書くことに慣れるようにした。何回か書いていくうちに、自分のスタイルを見つけていくことが大切である。ある程度書けるようになれば、時間を計って取り組むようにした。初めは時間がオーバーしたり、うまく書くことができなかった。しかし、何回も続けることで時間内に書くことができ、自分の書きたいことも書くことができるようになった。実践論では、毎週1枚書いて持っていくという風になっていたが、自分で選んだテーマについても書いていき添削していただいた。先生に添削していただいたものや実践論でもらったプリントをノートに、それぞれのテーマのポイントをまとめていった。このノートは試験の直前まで見て、とても役に立った。一人で時間を計って書くことも大切だが、直前期には2人くらいで1つのテーマについて時間を計って書いたりもした。お互いの小論文を読み、自分では思い付かなかったことに気づくこともできた。過去問や予想問題を解くことでそれぞれのテーマについて、しっかりと自分の考えをまとめることができた。

・面接

今までの自分の経験を見つめ直す機会になった。所属していた部活動や教育実習、スクールサポーター活動で何を学んだのかを考えた。私自身が部活動で学んだことは、コミュニケーションについてである。部活動のキャプテンを務めることで、多くいる部員一人ひとりにどのような関わり方をすればよいかを日々考えていた。この経験により、相手の話に耳を傾けることや何があっても毎日声をかけること、自分から近づいていくことの大切さを学んだ。キャプテンを務めた経験が、面接の対策をする上でアピールポイントになった。教育実習などについては、附属ではなく地域の中学校に行ったことで学力や家庭の状況などが様々な生徒たちと関わることができた。

・模擬授業

まず、過去問と教科書を見て指導案を作ることにした。指導案を作ることで、どのような力を付けたいのかそのためにどのような授業をするのかをイメージしていった。指導案を作った後は、一人で時間を計って模擬授業をした。板書の写真を撮り、真っ直ぐに書いているかや字の大きさ、色使いなどの確認もしていった。書いた指導案の授業を一通り自分でやり終えた後、同じ中学校数学の二次試験を受ける何人かで集まってお互いの授業を見せあった。このことにより、自分の癖や改善点を見つけることができたり、授業の内容を考え直したりすることができた。

【大事だと感じたこと】

一人で集中して取り組むときと、友だちなどと一緒に問題を出しあいながら取り組むときを作ることである。初めは一人で集中して取り組むことで基礎を固めることができた。ある程度勉強した後は、覚えたことをアウトプットする場を作ることで更に知識の定着を図ることができた。この方法を繰り返すことで、インプットアウトプットをすることができ、知識を理解しながら身に付けることができた。

毎日すべての分野に触れることである。一つの分野に絞って勉強することも大切であるが、全ての分野を満遍なく勉強することでそれぞれのつながりや関係性を捉えることができる。また、得意な範囲、苦手な範囲があるのは当然なので満遍なく進めていくことでモチベーションを保つことができる。

自分から教育現場に足を運ぶことである。教育現場に行くことで、現場の先生方とお話しすることができたり、生徒たちと関わることができたりするからである。自分で実際に現場を見て、感じたことや思ったこと、自分ならこうするだろうと考えることで面接や小論文などに活かすことができた。

そして、何よりも大切なことは教師に絶対なるという気持ちである。自分がなぜ教師になりたいのか、教師としてどのようなことをしたいのかというビジョンを持ち、それを実現していくための第一歩が教採合格だと考えていた。勉強がうまく進まないときやしんどいときは、その事を思い出してもう一度気合いを入れ直して、勉強するようにしていた。

【おわりに】

私が教員採用試験に合格できたのは、家族や仲間などの支えがあったからだと感じている。自分一人だけでは、今こうして笑顔でいることはできなかった。私を支えてくださった方々に感謝するとともに、これから頑張る皆さんも周りの人と協力して共に進んでいってほしい。

私のまとまりのない文章を最後まで読んで頂きありがとうございました。この文章が少しでも皆さんのお役にたてば、幸いです。

M. S. さん (学校教育 音楽専攻)

滋賀県中学校 音楽科 合格

【教師を目指した理由】

私は小さい頃からピアノを習い、高校では地元の音楽高校へ通い三年間音楽について学び、将来音楽関係の仕事に就きたいと考えていました。しかし、音楽家として生計を立てていくことは難しいということに気づき、子どもたちに音楽を教えるという学校教育の音楽教師に興味を持ち始め、滋賀大学教育学部に入學しました。初めはまだ教師になることに迷いがありましたが、大学での授業や実習を通して教職に魅力を感じ、一人でも多くの子どもたちに音楽の素晴らしさや楽しさを知ってもらいたいと思うようになりました。他府県での受験は考えず、友達や同僚が多く社会的人脈の広い滋賀県で受験をしました。そして、無事努力も実り、生まれ育った滋賀県で採用内定を頂きました。今ではたくさんの生徒と音楽を楽しむことができる教師という素晴らしい職業を選んで良かったと感じています。

【一次試験について】

・ 筆記試験 (教職教養/一般教養/専門科目)

私は五月に行われる学内推薦をもらうことができず、筆記試験の免除はありませんでした。正直、推薦を期待していたこともあり、本格的に勉強を始めたのは学内推薦の結果を知った後でした。まずは過去問の問題を一通り解いて傾向をつかみ、教職教養と専門科目については二冊の問題集(東京アカデミー)をひたすら繰り返し解きました。一般教養については、範囲が広すぎるため、過去問のみを繰り返し解きました。私の考える勉強法のキーポイントとしては、同じ問題集を繰り返し解いて頭の中に定着させることだと思います。私自身、勉強を始めるのが遅かったため、効率良く勉強することは非常に重要であると感じました。

・ 小論文

主に大学で行われている実践論という授業で小論文対策をしていただきました。先生からのアドバイスやレジュメをすべてファイリングし、試験前日に今までの小論文に目を通して自信をつけていきました。小論文対策として大事なのとはとにかく書いてみることに決めました。私は筆記試験対策に時間を割いていたので、できるだけ多くの教育課題や教育的実践例を図書館で教育雑誌(『教職課程』や『教育音楽』)を借りて自ら調べ、知識として持つようにしていました。また、小論文対策をすることで集団討論や集団面接にも生きてくると感じました。

・ 集団討論/集団面接

小論文対策と同様、大学の実践論という授業で対策していただけます。それに加えて、私は部活のメンバーや同じ校種のメンバーと練習を募り、自分の意見を明確に分かりやすく言うことに慣れようと努力しました。また、様々なメンバーやグループと討論することで、色々な意

見や疑問、知識を得ることができました。一つの教育課題に対して、様々な視点から意見や疑問を持つことが重要だと思います。

【二次試験】

・個人面接

私自身、すごく面接が苦手で、学内推薦の面接でも上手く言えませんでした。学内推薦の面接での失敗を活かし、私が特に力を入れたのが話し方です。面接では、その人の話している内容だけでなく、話し方や雰囲気も見られています。私は、常に笑顔で明るくはきはきと話すことを心がけました。また、どんな質問がきても自分はこういう教師になりたい！という強い意志を忘れず、一つ一つの質問に丁寧に答えることが大事だと思います。自分の人間性を最大限にアピールして、面接官と一緒に働きたいと思ってもらえるような雰囲気づくりをすることが大切です。

・模擬授業

私は同じ中学校音楽で採用試験を受けている友達と一緒に練習しました。中学校一年生から三年生までの題材を用いて三十個以上の授業案を考えました。一人で全部の授業案を考えるのは膨大な時間がかかるので、友達と協力して作成しどの題材が試験に出ても模擬授業できるようにしておくことで、実際に試験の場でも落ち着いて模擬授業することが出来ました。友達と模擬授業をし合い、お互いに良かった点や改善点を話し合うことで、模擬授業の質を高め合うことが出来ます。誰かに自分の模擬授業を見てもらい、評価してもらうことが重要だと思います。

・実技試験

私は受験科目が音楽なので、器楽独奏、弾き歌い、長唄、琴（さくら）という試験内容でした。それぞれの試験対策は試験内容通知が届いて内容を確認するまで本格的に練習していませんでした。器楽独奏や弾き歌いはレッスンの先生に見てもらい対策できましたが、長唄については歌い方さえ知らなかったなので、図書館にある中学校音楽の教科書用DVDを借りて、長唄の単元をひたすら見て歌い方を学習しました。琴は、大学にある教育用琴をお借りして、家で練習を重ねました。実技試験に関しては、子どもたちに音楽を教えているということを想定した練習をしっかりとしておくことが大事だと思います。

【おわりに】

教員採用試験を受けてまず感じたことは、その人の人柄をものすごく見ているということです。中学校音楽は講師経験のある人も多く、実践例や経験では勝てない部分もたくさんありました。しかし、自分が何をしてきたのかという事実だけでなく、自分はどんな人間か、どんな教師になりたいのか、という自己分析をしっかり行い、自分を把握し常に意識しておくことで、今自分に足りないものを補うことが、採用試験合格への近道だと私は思っています。最後まで読んでいただき本当にありがとうございました。みなさんの幸運をお祈りしています。

H. S. さん (学校教育 国語専攻)

京都市中学校 国語科 合格

【はじめに】

私は、自分の出身地である京都市を受験しました。出身地と滋賀県のどちらを受けるか悩んでいる人もたくさんいましたが、私は地元への愛着が強く京都市の教育理念に共感したこともあり、受験自治体を悩むことなく京都市に決めました。ただ、京都市中学校を受験する仲間を見つけることができず、試験に関する情報を集めることや対策の方法にとっても不安がありました。そのような中でも受験自治体や校種に関わらず、中学校を受験する人や、同じ京都市を受験する人と一緒に勉強や対策をし、先輩にもさまざまなことを教えてもらって、万全の状態で試験に臨むことができました。このように多くの人と支え合って教員採用試験に臨めたのは滋賀大学だからこそできたことであり、本学の素晴らしいところだと思います。拙い文章ではありますが、この体験記がみなさんの教員試験対策や不安解消に少しでも役立てば幸いです。

【1次試験】

7月2日(土)	筆記試験 場所：京都市立御池中学校
7月3日(日)	
9日(土), 10日(日)	面接試験
16日(土), 17日(日)	場所：京都市立御池中学校
のうち指定する1日	

筆記試験では、一次試験の配点の半分を占める専門に力を入れて取り組みました。東京アカデミーのオープンセサミを中心に問題演習に取り組み、過去問で自分の力を確認しながら進めていきました。足りない知識は、高校の時に使っていた問題集や教科書を使って補いました。教職教養については、京都市では教育法規の内容が中心となって出題されるので、専門と同様にオープンセサミを何度も繰り返し解いて問題に慣れていきました。

面接試験は個人面接です。個人面接では、8個の質問と、その間に1分間の場面指導がありました。質問の内容としては、近年の教育問題として挙げられていることに関するものが多かったので、日頃から教育ニュースに関心を持ち、学生ボランティア等で実際の学校現場の様子を知っておくことが大切だと思いました。私は学生ボランティアとして毎週1・2回現場の生徒と関わり、図書館やネットで教育ニュースに関する記事を多く読むようにしていました。また、京都市の「学校教育の重点」も読み、京都市の教育方針や課題についても把握するようにしていました。

面接練習は、面接ノートを作り自分の意見をまとめました。また、友人と意見を交換して内容を深め、簡潔に答えを述べられるように時間をはかりながら練習をしました。

【2次試験】

8月20日(土)	集団討論・模擬授業 場所：京都市立西京高等学校・附属中学校
8月21日(日)	小論文 場所：京都市立西京高等学校・附属中学校

集団討論は、司会を決めて一つの議題について話し合います。簡潔に自分の意見を伝えることに加えて話を聞く態度も重要だと聞いたので、話している人の目を見て頷きながら聞くよう心がけました。また、自分の意見を述べるだけでなく、他の人の意見を踏まえて意見を述べるなど、討論が活発に進むよう意識していました。練習の際には、個人面接同様に面接ノートを作り、友人の意見を書き加えたりしながら自分の考えをまとめていきました。

模擬授業では、80分間で指導案を作成し、10分間の模擬授業を行います。80分間の指導案作成は時間に余裕が無いので、事前に図書館で指導書を読みながらすべての単元の指導案を実際に作成し、試験当日にはそれらを思い返しながら作成できるようにしました。授業の内容としては、教師からの一方的な授業ではなく、生徒が主体的に参加できるような授業の方が良いと聞いたので、その点を意識して指導案を作成しました。京都市の試験では、模擬授業に生徒役の受験生がいるので、練習の際には友人に生徒役になってもらいました。はきはきと大きな声で、生徒の目をきちんと見ながら授業をするように心がけていました。試験会場である西京高校・附属中学校は、どの教室でも黒板ではなくホワイトボードが設置されており、模擬授業もホワイトボードで行うので、その練習もしておくと思いいます。

小論文は、短い時間の中で多くの字数を求められているので、あらかじめ課題に応じてどのような内容を述べるかまとめておく必要があると思います。私は、教育実践論等で何度も繰り返し小論文の添削をしていただき、面接ノートの内容も加えながら、どのような課題の時にどのような内容を書くかをまとめていきました。添削をしていただけなくても、時間をはかって繰り返し小論文を書くことで、スムーズに書くことができるようになると思います。

【おわりに】

私はもともと緊張しやすい性格なので、面接練習や模擬授業練習で自分に自信が持てず苦しい時期もありました。それでも最後まで頑張ることができたのは、指導してくださる先生方や一緒に頑張っている仲間、応援して支えてくれる人たちがいたからだと思います。多くの人と励まし合いながら練習に取り組むことで、自信を持って試験に臨むことができました。京都市を受験する人は少なく、不安になることも多いかもしれませんが、自治体や校種に関わらず、切磋琢磨し合える仲間と共に頑張ってください！応援しています！

M. S. さん (学校教育 美術専攻)

大阪府中学校美術科 合格

滋賀県中学校美術科 合格

【はじめに】

私は滋賀大学に入学した当時、教師がどのような仕事であるか分かっておらず、漠然と教師になりたいと考えていました。そして、大学での講義や教育実習などを経験していくうちに、教師のやりがいや楽しさを知って惹かれていきました。

3 回生の教育実習を終えて、中学校の教師になるために少しずつ、教員採用試験に向けて取り組みました。これまでもサークルでのボランティアやスクールサポーターにも積極的に参加していました。4 回生の採用試験では、初めて関西圏で併願できることを知って、私の地元の大阪府と大学のある滋賀県の両方を受験しました。

【併願について】

私は大阪府も滋賀県どちらも魅力的に考えていて、どちらかに決めることを悩んでいました。いざ4月に受験要項が発表されて、どちらも試験日が重ならず受験できることを知って、両方を受験しようと決めました。しかし、「二兎を追う者は一兎をも得ず」という言葉を思い出し、家から通えてスクールサポーター、不登校支援室のスタッフも経験していた地元の大阪府に重点を置いて勉強しようと決めました。

最初に併願を希望するうえで、しっかり受験要項を読みこんで試験日や試験内容を確認することが大切だと思います。それを踏まえたうえでどちらに重点を置くのか、勉強方法など変わっていきます。大阪府と滋賀県はそれぞれ少しずつ違った試験内容でしたので、どちらも勉強することは大変でした。私が受験した時はこのような形でしたが、受験する際はしっかり教育委員会のホームページを確認して下さい。

今年度は、大阪府は3次試験まで、滋賀県は2次試験までありました。

【一次試験】

大阪府

①筆記試験 7/2

大阪府の筆記試験の内容は、教職教養＋一般知能でした。一般知能は新しく試験内容に加わり、分からないことだらけでした。そのため、私は東京アカデミーの一般知能の対策ができる集中講義を5-6月に受講しました。教職教養は、問題集や過去問を3周以上は解いて、ひたすら図書館で勉強していました。先輩にお話を聞いたり、先生ポータルなどのサイトで外部の勉強会や講習会を見つけて参加したりして、勉強のモチベーションを上げるようにしていました。大阪府は、筆記試験のみで一次試験の結果が決まります。

滋賀県

①筆記試験 7/9

滋賀県は、教職教養＋小論文＋専門教科の3つの試験内容でした。大阪府よりも多く、勉強が大変でした。小論文は、大学の教職実践論に参加したり、大学の先生に添削してもらいました。時間が限られているので、最初にワードを書き出して素早く書く練習をしました。専門教科は、ひたすら過去問と教科書の暗記をしました。教職教養とは違い、これまでの知識

もあったので、勉強は楽しかったです。ですが、もっと2回生のころから専門教科は少しずつ勉強すべきだったと感じました。

② 集団面接／集団討論 7/17

私は、面接と討論がとても苦手だったため、対策にとっても悩みました。最初はなかなかすぐに言葉が出ずに詰まっただけでしたが、面接ノートをしっかり作って頭のなかを整理し、一人でもたくさん声を出して練習を重ねていったら、「これだけ練習したから大丈夫！」と自信がつき、本番でもあまり緊張することなく挑めました。集団でも個人でも同じで、苦手意識がある人は面接ノートを作って言いたいことをまとめると良いと思います。大学での講義に加えて、個人練習、大学の先生や先輩、友達と練習、外部のセミナーなどたくさんの機会を作って練習しました。

集団討論は、たくさん練習を重ねることが大切です。大学の教職実践論でも、練習が行われるので、苦手でしたが積極的に参加するようにしました。自己主張が苦手なため集団討論が得意ではありませんでしたが、実際はコミュニケーションや円滑な討論が行われる様子が見られます。そのため相手の意見を尊重したり、同意したりすることが重要です。そのため、自分にはどんな反応や役割が合っているか練習で見つけてみてください。

【二次試験】

大阪府

① 個人面接 7/23

滋賀県

① 模擬授業 8/18

滋賀県の模擬授業は、テーマを当日にくじ引きで決めるため何が当たるか分かりません。過去問を一通りできるように内容を考えて、練習を重ねました。スマホで自分の授業の様子を撮ったりして、客観的に見て自分のくせを直しました。口癖や身振りなど自分では気付けないことも多いので、先輩や教授、友達に見てもらうことも良い経験になりました。私は、教職サークル GETS に入っており卒業生の現職の方に見て頂いたりしてアドバイスをもらいました。現場のお話も聞いたりして、教師になりたい気持ちを高めました。

② 個人面接 8/18

② 実技試験 8/18

滋賀県の実技は、昨年とは違って平面の課題でした。県庁には3年分の過去問しかありませんが、学生センターの学生・就職支援係にはそれ以上昔の過去問が置いてあります。それを見て、美術の実技は何年分か繰り返して立体と平面が交互に課題として出てくるのが分かり、どんな内容が出るか予想していたものが大体出ました。

【三次試験】

大阪府

① 実技試験 8/28

大阪府の実技試験は、平面と立体があります。平面は、例年と同じ着彩デッサン。立体は、過去にはなかったストロー100本での立体構成でした。実技は短期間で上達は難しいし、教職教養の勉強が始まるとなかなか時間が取れないため、早いうちから練習すべきだと思いました。着彩デッサンは、高校のときに何度か描いていて、そのときのアドバイスを思い出したり、美

術の先生に見て頂いたりして何枚も練習を重ねました。立体構成は、経験も少なく何が出るか分からなかったため、段ボールや紙コップ、ケント紙など様々な素材で練習して、制作に慣れることから始めました。大学の先生に見て頂いたり、友達の作品を見て勉強しました。

②筆記試験（専門） 8/28

③模擬授業 9/21

事前に連絡されたテーマに従って模擬授業を考え、発表しました。半月以上は、考える時間があったため、教授に相談したり自分で調べたり、何があっても大丈夫のように完璧に仕上げていきました。滋賀県とは違い、事前に準備できるので心の余裕があると思います。教室ではない狭い会議室で、ホワイトボードに書いて授業をします。滋賀県は、小学校の教室の黒板だったので、ホワイトボードに字を書く練習もしました。

④個人面接 9/21

模擬授業が終えたら、すぐに個人面接が始まりました。滋賀県は面接官が違ったのでされませんでした。大阪府は模擬授業についての質問もされました。素直に答えていくと良いと思います。

以上で、私の教員採用試験の体験記を終わります。この合格体験記が少しでも皆さんの不安解消に役に立てば幸いです。

高等学校

K. Y. さん（環境教育課程）

滋賀県高等学校 生物 合格

この度は体験記を書く機会を頂き、ありがとうございます。4年間の大学生活を振り返って、様々な人に支えられてここまで来ることができたのだと実感しています。教員を目指す人だけでなく、進路に迷っている人、挫けそうになっている人の助けになることを願って、この体験記を書かせて頂きます。

教職へあこがれたきっかけ

私が所属する環境教育課程は改組されましたが、私たちの学年はいわゆる「ゼロ免」で、教員養成の課程ではありません。私は、入学時は将来何になりたいかを考えておらず、大学生活の中でゆっくり考えようと思っていました。

そんな私が教師になろうと決心したのは、高校時代に慕っていた恩師のおかげです。私が高校3年生のとき彗星のごとく転任してきた生物の先生で、授業がとても上手く、生物の世界の奥深さと面白さを教えてくれました。なんとなくその先生に憧れていたのでしょうか。漠然とですが、せつかく教育学部に入ったのだから、資格として中高理科の教員免許を取りたいという気持ちが芽生えました。しかし、やがて大学生活にも慣れてくると、講義が教員になるための内容ばかりであることに戸惑い、自分の進路について真剣に悩み始めました。まだ本当に教師になるかどうか分からないのに、このまま教員を目指す道をつき進んで、教育実習に行っても良いのだろうか。自分はこの大学で、何を学びたいのだろうか。そう悩んだ末に、私は1回生の秋に母校を訪れ、件の生物の先生に進路や人生のことを相談しました。先生は自分の教師人生や、破天荒だった大学時代について真摯に話してくださいました。先生の生き様に憧れた私は、先生のような教師になるのだと決意をしました。

え、教採ってめっちゃ厳しいの？

2回生も始まった頃、専攻の先生との進路相談の中で、先生は私に「高校で教員採用試験を受けるのは大変だぞ。君のライバルは教育学部の学生ではないのだから」と言いました。高等学校教員は教員採用試験の中でも倍率が高く、理学部や修士卒の高い専門性を備えた受験者が数多く受験するというのを、その時に初めて知りました。簡単に教師になれるものだと思っていた私は、自分の浅はかさが恥ずかしくなりました。

大学を飛び出してみた

2回生の春学期、視野を広げたくなった私は、大学を飛び出してみようと思いました。キャンパス休校期間に、とある大学の生物資源学部で授業を受けるため神奈川県へ行きました。友人の下宿先に泊まり、丸一日、複数の学科を跨いで、知的好奇心の向くまま矢継ぎ早に講義を聴きました。また、専攻の先生の勧めで、夏休みに茨城大学理学部の公開実習に参加しました。偶然にも教師志望の学生と知り合い、3日間共に学ぶ中で様々な大学生活の話聞くことができました。これらの経験は私にとって良い刺激となり大学生活を変えるきっかけになりました。

他大学の熱意ある学生をみて、「君のライバルは教育学部ではない」という言葉の意味が痛い

ほど分かった私は、今のままだと教員採用試験に受からないな、という焦りを感じていました。それからの私は図書館に通い、新書から分厚い本まで沢山の本を読みました。ある時は地球外生命について興味を持ち、宇宙生物学の本を濫読したこともありました。

大学推薦！でも落ちた（泣）

4回生の春、いよいよ教員採用試験も間近になりました。私立や他府県の併願も検討しましたが、私は環境教育専攻で琵琶湖の生物や環境のことを学んできたので、それを生かしたいと思い滋賀県一本に絞りました。滋賀県の高등학교で大学推薦があることを知り、学内選考に志願しました。ゼミの先生には自己PRを添削してもらっただけでなく、アピールポイントを思索する中で、教職や学問に対する私の考えの甘さに厳しいご指摘を頂きました。深夜まで大学に残って、友人と何時間も面接練習を重ねました。

万全の対策をし、満を持して学内選考の面接を受けましたが、至らないところがあったのでしょう。推薦を貰うことは出来ませんでした。面接を受けた日の夜、スマートフォンを開くと、不合格であった旨の連絡が届いていました。目の前が真っ暗になって、バイト先から涙を堪えながら帰ったのを覚えています。あれだけ添削をしてもらい、練習もしたのに駄目だった。自分に力を貸してくれた人たちに申し訳ない。自分は教員採用試験に合格出来るのだろうか。教師への扉が閉ざされてしまったような気がして、不安で心が一杯になり、気持ちが折れかけました。しかし、周りの人に励まされて立ち直った私は、この悔しさを晴らそうという決意の元、いっそう勉強に身が入るようになりました。大学推薦の選考に落ちても教員採用試験に合格する人は大勢いるので、気にする必要はありません。面接での悪かった点をしっかり分析し、気持ちを切り替えて試験に望みましょう。

筆記試験対策は…

自分の中に芯となる考えがあれば、面接は数回練習をするだけで大いに良くなります。一方で専門教科の筆記試験は、付け焼刃ではとても歯が立ちません。私は3回生の12月頃から、国公立二次・難関私大レベルの問題集を何冊もこなしました。

最初は、高校時代に使っていたテキスト『セミナー生物』をやりましたが1週間で終わってしまい、圧倒的に演習量が不足していると感じました。そこで、本屋で大学受験用の問題集を見つけるたびに買って消化していきました。一例を挙げると、駿台の『理系標準問題集』や旺文社の『標準問題精講』など10冊以上は解きました。高校化学で教員採用試験に受かったある先輩も、とにかく数をこなしたらしいので、演習量はかなり意識しました。

筆記試験では高校レベルを上回る知識を問われることもあります。そのような問題の対策としては、ブルーバックス等の本をたくさん読んで、知識の幅を広げておくのが良いと思います。私のおすすめは『大学生物学の教科書』シリーズです。

また、高校生物では分子・細胞生物学の内容が増えており、これからも増えることでしょう。現行の教科書をはじめ手にしたとき、自分が高校時代に習わなかった内容が増えていて戸惑いました。わかりやすく解説した書籍がたくさん出ていますが、『分子生物学講義中継』シリーズ(羊土社)が特におすすめです。面白いですよ。

教職教養は協同出版の過去問と、『教職課程』の教職教養特集号の2冊だけを何周も解きました。教職教養の参考書を見ると、内容が膨大に感じます。一方で、滋賀県の教職教養は問題が選択式である上、重要な内容が何度も出題されるので、1冊の内容を完璧になるまでやり込むのがよいと思います。

一般教養は滋賀県では5教科から出ます。高校受験レベルに少しセンター試験レベルの問題が混じるくらいの難易度です。得意科目で点が取れるので、対策はしませんでした。

模擬授業が一番恐ろしい！

教員採用試験の2次試験では模擬授業があります。受験者は15分間の時間を与えられ、手元に資料のない状態で授業を考えなければいけません。模擬授業のテーマ（例えば『真核生物の転写調節について』等）が書かれた問題用紙を一枚渡されて、即座に頭の中から知識を引き出し、7分間の授業内容を考えなければいけないのです。

あなたが高校時代に教わった先生を思い出してください。何か質問をしたら、豊富な知識を基にすぐさま答えてくれたはずです。プロの教師なら、自分の専門教科について何も見ずに教えることができ当然なのです。できなければ、教師の重要な資質の一つである「専門性」が備わっていないと判断されてしまうかもしれません。

『10のことを教えるには100のことを知っていなければならない』

母校実習のとき、件の高校の先生に教えて頂いたことです。教科書の知識を知っているだけでは、内容を理解しているとは言えません。また、生徒が興味を持てるような授業も出来ません。だからこそ、教師は常に学び続けなければいけないのだと思います。えらそうなことを言っていますが、私自身まだまだ勉強が足りないと思っています。

小論文と面接対策

小論文は、教職実践論の先生に添削して頂きました。厳しいダメ出しを受け、何度も書き直しをしましたが、その度に先生から暖かい励ましの言葉を貰いました。丁寧かつ熱心に指導して頂いたおかげで、数ヶ月間頑張ることができました。

グループ討論や面接、模擬授業は、同じ高校教員志望の仲間達で教室を借りて、何度も練習しました。皆で切磋琢磨したことが良い結果につながったと思います。

私は無事に1次試験を突破することができ、2次試験で面接を受け、模擬授業をしました。模擬授業のテーマは『被子植物の配偶子形成と重複受精』でした。「この中に花粉症の人はいますか?」という導入をとっさに思いつき、板書も綺麗に描くことができ無事に乗り切りました。

会場が家から遠く朝5時には起きなければならなかったため、当日は少し眠気がありました。夜更かしは避け、日頃から本番の時間に合わせて生活習慣を整えることをおすすめします。面接は少し緊張してうまく話せませんでした。私の説明に面接官の方が「つまりこういうことですか?」という具合に補足をして下さるなど、穏やかな雰囲気が進みました。自信満々で面接を受けると印象が悪く、圧迫面接になりやすいと聞いたことがあります。軽度の緊張がかえって功を奏したのかもしれません。

おわりに

今も滋賀大学に入学した日を、つい昨日のように感じます。いつの間にか教員採用試験の日がやってきて、私は教師への第一歩を踏み出すことが出来ました。大学生活は本当にあっという間です。一度立ち止まって今までの自分を振り返り、これからどうするかを考えてみてはいかがでしょうか。私もそうだったのですが、高校教員志望者は専門の学部を受験生に引け目を感じがちです。ですが、教師を目指しているという真剣な気持ちと、大学で学んできたことに自信を持ってください。そして、自信が持てるくらい深く学んでください。後輩の皆さんが実力を出し切って、それぞれの良いところを面接官に伝えられるよう祈っています。体験記を読んで下さりありがとうございます。

E. S. さん (学校教育 英語専修)

滋賀県高等学校 保健体育科 合格

【はじめに】

私は大学入学時から英語と体育、どちらのコースに入るか迷っていました。2回生の後半から副免で体育を取り始めましたが、3回生の後半には「体育を一生の仕事にしたい」と思い、採用試験は保健体育で受けようと決心しました。また、どうしても高校で部活の指導をしたいと思っていたので中高で迷うことはあまりなく、どうしたら高校体育で合格できるかということを中心に考えていました。少し特殊ではありますが、私のように副免の教科で採用試験を受けようと思っていたら、中高の保健体育を受験しようと思っていたら、また高校は倍率が高いから…。と受験を迷っていたら、この体験記がお役に立てれば幸いです。

【1次試験】

1日目 (7月9日 立命館大学)

小論文 専門教科筆記 一般教養・教職教養マーク (YGPI 性格検査マーク)

2日目 (7月16日 膳所高校)

1分間自己アピール 集団討論 集団面接

1日目の筆記試験のアドバイスです。高等学校は専門性が求められるうえに中学に比べて難易度も高く、専門教科の筆記試験の配点が高いのでしっかり勉強してください。指導要領の主要なページだけではなく、1つ1つの解説ページや中央審答申などからも出題されるので、高校用の指導要領を何度も読み込んでください。

小論文はとにかく書ききることに意味があります。内容は高等学校ならではのことが書けたら良いのですが、無理に結びつける必要はありません。専門教科では自分が授業で大切にしたいことがまとめられれば良いと思うので、教育課題全般を多めに練習してください。

2日目の面接のアドバイスです。滋賀県は面接が重視されるので話し方や他の人の話を聞く態度まで気を遣ってください。内容は上手いことが言えなくても、面接官の方(教育委員会の方・校長先生・一般企業の面接担当の方?の3名です)は必ず熱意を感じ取ってくださるので、しっかり目を見て話しましょう。

専門性の求められる高等学校の受験者は、教育学部でないことが多いです。講師の方も多いです。集団討論をしても、どんどん専門的な知識ばかりに話がいつまでもついたり、今求められている教育に話が結びつかなくなったりしがちです。そんな時に他の受験者の意見を尊重しつつも、教育学部で学んだからこそ見える視点を提案したり、さりげなく話の流れを整理したりできると良い印象を持たれます。人間性を重視する滋賀県では、教育学部で学んだからこそ高等学校を受験するということだけでプラスに働いていると私は思います。

【2次試験】

1日目 (8月20日 膳所高校)

実技試験 (バスケットボール・ソフトボール・走り幅跳び・水泳)

2日目 (8月23日 滋賀県立大学)

個人面接 保健の指導実技 (バウムテスト)

1日目の実技試験は中学校保健体育受験者と一緒に行われます。合わせて50人程です。全ての種目において記録をとられるので、綺麗な形でできるかということも大切ですが、結果にもこだわってください。また「〇〇ゾーンの外からシュートを打ってください」など、専門知識がないと間違えてしまうものもあります。どうしてもわからなければ練習時間があるので同じ滋賀大の友達や、その種目が専門と思われる上手そうな人に聞いてもいいかもしれません。実技は2次試験を受ける体育友達、または小学校でマットなどの実技がある友達と場所を取って練習し、時には陸上専門の後輩や柔道部さんにも教えてもらいました。とにかく滋賀大で団結して練習あるのみです。受験会場で全ての種目を完璧にこなしている人はほとんどと言っていいほどいないので安心して受けてください。

2日目の面接は、自分を出し切ってください。基本的には面接カードに書いてあることをもう一度聞かれ、そこから深く掘り下げていくといった感じです。私はされませんでした。なぜ英語ではなく体育なのか？という質問をされるならこの個人面接のはずです。自分の弱みだと思われる質問ほど、自信を持って堂々と答えてください。最後のほうに1次試験の集団面接のような質問が1つ2つされるかもしれません。高等学校の面接官の方はとてもフランクで、面接というよりはインタビューを受けているような感覚でした。高等学校保健体育の指導実技は保健しか出ません。テーマも全員同じなので、くじをひいたりすることはありません。最後に今行った授業についてや、授業の中で出てきたキーワードについて質問されます。黒板は素早くきれいに消して帰りましょう。

【おわりに ～高等学校を受験するにあたって～】

高等学校の問題はどの教科でも難しい、小中に比べて倍率も高い、大学の授業でも取り扱ってもらえる機会が少ないといったマイナス面は確かにあります。しかしそれ以上に、多くの教員志望の仲間と一緒に、教育学部生として小学校や特別支援、発達段階や生徒理解など幅広く学んできたことは必ず大きなアドバンテージになります。

いま一度、目先のことではなく、自分が教師になりたいと思ったきっかけや先生を思い浮かべてください。そしてこの先続いていく教員人生での、自分の本当になりたい姿を想像してください。みなさんの頑張りを心から応援しています！！

特別支援学校

N. N. さん（学校教育 障害児教育専攻）

滋賀県 特別支援 合格

【はじめに】

私は今年度、滋賀県教員採用試験特別支援を受験し、合格をいただくことができました。私は生まれも育ちも滋賀県であるため、他の県の受験は考えていませんでした。ここでは、教員採用試験を受験するにあたり、私自身が感じたことや勉強方法、試験のことなど、私の経験をもとに述べていきたいと思います。参考になるかは分かりませんが、少しでもみなさんの就職活動や教員採用試験のお役に立てれば幸いです。

【一次試験】

*教職教養

- ①教職教養ランナー 一ツ橋書店
- ②教職教養ポイント 15 日間 学研
- ③教職教養 問題集 東京アカデミー
- ④滋賀県の教職・一般教養 過去問 協同出版

*一般教養

- ①一般教養 問題集 東京アカデミー
- ②一般教養ポイントチェック 15 日間 学研

まずは教職教養についてです。まず全体がどんなものなのかを把握するために、暗記できなくてもいいので①に直接書き込んでいくことから始めました。その後、②の問題を実際にやってみて、自分の力を把握し、③で問題演習を重ねていきながら知識を蓄え、④で実際の問題を解いてみるという流れで勉強しました。また、③や④で間違えた問題はノートにその都度まとめていき、スキマ時間に覚えられるようにしました。また、滋賀県教育委員会の HP をこまめにチェックしたり滋賀県の学校教育の指針をよく読み、暗記するように心がけました。

次は一般教養についてです。一般教養も教職教養と同じ要領で問題を解き分からないところをまとめていくという作業でした。ただ、解説を読んでも理解できないときにはすぐに友だちに教えてもらうようにし、分からないところをそのままにしておかないようにしました。その他には、中学校や高校の参考書や歴史マンガ等も活用して勉強しました。

*専門

- ①滋賀県の特別支援教諭 参考書 協同出版
- ②滋賀県の特別支援教諭 過去問 協同出版
- ③特別支援教育 東京アカデミー
- ④すいすい身につく特別支援学校学習指導要領 一ツ橋書店

専門の勉強も教職・一般教養とあまり変わらず、③の問題を解いて、間違えたところをノートにまとめていくという方法で勉強していました。何周も繰り返し解いていくことで、自分の苦手なところがだんだん分かってきたので、そこを重点的に勉強し、また問題を解くということを繰り返し行いました。それと並行して②の過去問を解いて力試しをしたり、④の学習指導要領の暗記を少しずつ行いました。また、特別支援教育の推進について文部科学省が出している通知や滋賀の目指す特別支援教育ビジョンなど滋賀県の目指す特別支援教育がどのようなものか新しい情報にも目を通して理解しておくことが大切であると思います。

*小論文

小論文は教職実践論の先生に添削、指導していただきました。また、添削してもらったコメントに気をつけながら、もう一度書き直して、もう一度添削をしてもらおうということを繰り返しました。また、友だちと一緒に時間を決めて書き、お互いに読み合っって指摘したり、参考にしあったりすることを繰り返しました。さらに、小論文を書くだけでなく、毎日新聞に目を通すようにし、教育に関する記事などがあればそれを切り抜き、その記事の内容の要点をまとめ、それに対して自分の考えを書く等、知識を蓄えることにも取り組みました。小論文には明確な解答が無いので手応えを感じることは難しいですが、小論文の中で自分の考えだけでなく、自分の良さを出していけるように何度も書いて練習することで自信も持てるようになると思います。

*集団討論

・自己 PR (受験番号を含めて 1 分間)

自己 PR は専攻の先生と実践論の先生に添削していただきました。1 分間でどれだけ自分をアピールできるのかが大事だと思います。そのために、話の中に具体的なエピソードなどを盛り込むと説得力が増すと思います。また、話すときには考えた文章をただ読むのではなく、伝えたいことを頭に置きながら話す速度や強弱などを考えながら話すこととアピールしたい部分がより伝わるのではないかなと思います。緊張するとは思いますが、自己 PR が上手くできるとその後の集団討論や面接がより落ち着いてできると思います。

・集団討論・面接

集団討論は滋賀大で配布されている部外秘を活用して練習しました。主には特別支援学校を受験する人で集まり、練習を行います。学校種を問わずできるだけたくさんの人と練習をすることをお勧めします。部活動の仲間や友だちの友だち、講師をしている先輩など声をかけあって集まり練習を行いました。そうすることで、いろんな視点からの意見や新たな考えに触れることができ、自分の引き出しを増やすことができるからです。また、討論をした後には、どのような意見が出たのか、あまりうまくいかなかったときにはなぜうまくいかなかったのか、どのように話を進めていったらよかったのかなど振り返り、それをノートにまとめていく作業を積みかさねることで、次第に自信をもつことができるようになると思います。自分の考えを話すだけでなく、周りの意見もしっかりと聴いて、グループ全体でうまく話を進められるような心がけできるといいと思います。

【二次試験】

*個人面接

個人面接は受験者によって質問内容等、異なると思いますが、私は志望動機に関する質問や人間性を見られる質問など自分自身に関する質問が主で、時間は 10~15 分でした。こちらも、部外秘を基に練習を行うことで、おおむね対策できるのではないかと思います。部活動やボランティア活動など、自分の強みをしっかりと持っておくことで、面接のときにもしっかりとアピールすることができると思います。部活動やボランティア等で活動してきた中で身につけた力を教師になった際にどのように活かしていくことができるのか、どのような教師になりたいのか、どんな教師になるのかが面接官に伝わるような内容であればどんなことを話してもいいと思います。あとは自信をもって大きな声で話すことで面接官に伝わるといいと思います。

*模擬授業

滋賀県の特別支援学校の枠で受験する人は、(取得見込みの)基礎免許から出題されます。

試験本番では、授業の構想を考える時間が7分、教室入室時、模擬授業、その後の試験官からの質問を含めて15分でした。

模擬授業の練習は、一次試験を合格した後に始めたため、十分な時間があまりありませんでしたが、同じ校種の友だちと協力して行いました。部外秘をもとに、傾向をつかみ、算数と理科を主に、模擬授業の練習を行いました。まずは、教科書と学習指導要領を照らしあわせて、授業のねらいやポイントは何なのかを1つ1つまとめ、それを踏まえて、実際に時間を測って、模擬授業の練習を何度も行いました。実際に黒板に板書をし、教室の前に立って話す練習を繰り返すことで、自分の癖や改善点ができるだけでなく、友だちの良いところを参考にすることができるので、とてもいい練習になったと思っています。

【おわりに】

最後まで読んでいただきありがとうございます。私は教員採用試験までの道のりでたくさんの仲間がいたからこそ頑張ることができたと思っています。勉強だけでなく、一緒にご飯を食べたり雑談をしたり、勉強だけでなく、息抜きも大切にしました。共に励まし合って、高め合えるような仲間をつくり、教員採用試験に臨んでほしいと思います。振り返ると、本当に多くの人に支えられてきたのだと思います。何度も粘り強く指導してくださった先生方、共に頑張ってきた大学の仲間、図書館の自習場所や学習室などの勉強する環境を整えてくださった大学の皆様、家族の支えがあって初めて採用という結果を得ることができたと思います。今後も感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思っています。皆さんも、自分なりのスタイルで合格に向けて頑張ってください！